NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター　イデア

2019

1月号

つながり×ひろがる　　いちのせき市民活動センター

1 | 二言三言　安心して出産・子育てができる地域にするために

3 | 団体紹介　朝顔のたね -千厩病院を守り隊-（千厩）

4 | 地域紹介　花泉　白浜集落公民館（花泉）

5 | 企業紹介　株式会社　県南タクシー（一関）

6 | センターの〇〇　センターの自由研究　市内の気になる巨石～立石神社～

フタコト×ミコト

第55回　二言三言 126/117,592

安心して出産・子育てができる地域にするために

対談者　助産師/思春期相談士/ヨガインストラクター　黒澤 真澄 さん
聞き手　いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺 浩樹

女性のための専門家

【小野寺】僕と黒澤さんが初めてお会いしたのは15年ほど前でしょうか。

助産師/思春期相談士/ヨガインストラクター
黒澤　真澄　さん

【黒澤】はい。小野寺さんがサティ（現「イオン一関店」）で色々な市民活動団体の展示・紹介をしていた時に、初めてお会いしましたね。当時私は旦那の転勤で一関に来たばかりでしたが、暮らしているうちに「一関で仕事がしたい」と思うようになり、10年前に「マタニティ相談室くろさわ」を開業しました。

【小野寺】黒澤さんは「助産師」として地域で活動されていますが、そもそも助産師とはどんな職業なのでしょうか？また、今一関市には何人くらいの助産師がいるのでしょうか？

【黒澤】一昨年前に、一関病院さんで助産師がいなくてお産をやめたというニュースが話題になりましたよね。その時に「助産師がいなくなるだけで、病院でお産ができなくなるの？」と、助産師がクローズアップされました。

　助産師とは、いわゆる「お産をする時のお母さんのお手伝いをする人」で、正常分娩では赤ちゃんを取り上げますし、産後はお父さんお母さんが育児に困らないよう技術や知識を教えるのが仕事です。開業することで、病院ではできない赤ちゃんからお年寄りまで、女性のライフスタイルのステージに合わせてずっと関わっていくことができます。いわば、女性のためのプロフェッショナルなんです。

　一関市にいる助産師の人数はわかりませんが、開業しているのは私だけです。助産師の多くは病院等の施設勤務で、看護師からのキャリアアップで助産師の資格を取る方もいます。

【小野寺】そうなんですね！もしかして、黒澤さんが行っているヨガはその関係ですか。

【黒澤】はい。ヨガは女性に多い冷え性や便秘改善に効果的ですし、年齢関係なくできます。私のヨガ教室では、「ヨガのほかに女性の体のこともプロに相談できる」と利用してくださる方もいますよ。

　私は依頼を受けて各家庭を訪問し、母子のケアや母乳相談を受けています。例えば突然「母乳が詰まった！」という時に赤ちゃんを連れて病院で何時間も待つのは大変ですよね。そんな時に電話をもらえれば、自宅でケアを受けることができます。

ヨガを教える黒澤さんと親子の皆さん

【小野寺】なるほど。「思春期教室」や「いのちの教室」というのはどんな取り組みですか？

【黒澤】小・中・高校で男女の心と体の違いや性トラブル、命の大切さを伝えたり、思春期の親と子の関わり方などについて講演するものです。年間 30 件～40 件ほど行っていますよ。

【小野寺】本当にオールマイティーなんですね。

【黒澤】助産師は、子ども達が健全に大人になるための基盤をつくってあげるために、お母さんや子どもをサポートします。お母さんはちょっとしたことで不安

になり、ハイリスクになるものです。それが育児ノイローゼになり、虐待に繋がったり…。子どもの基盤を作るのはまず１番にお母さんですが、お母さんの心が満たされていなければ子どもにも心の栄養がいきわたりませんよね。

最近では核家族がすごく増えているので、「子育てを誰に聞いてよいかわからない」という人達のほとんどはネットで育児を検索します。でもネット情報は全て正しいわけではありませんので、色々な情報に迷い惑わされ、不安が増殖されることが多いです。

【小野寺】確かに、今は子育て関係のアプリもたくさんありますからね。

【黒澤】ネットを見る時間が長くなれば子育てが疎かになるし親は子を見なくなります。困った時にすぐ相談できる所があったり、話し慣れた助産師さんがいれば安心すると思います。あとは育児の孤立化ですね。

【小野寺】「孤育て」ってやつですよね。

【黒澤】そういうママ達にとって「ここに相談すれば大丈夫なんだ」という駆け込み寺のような場所に少しでもなりたいなって思います。

厚生労働省の「健やか親子 21 全国大会」で「家族計画会長賞」を受賞した時の一枚

企業で託児所を設置するには

【小野寺】最近の企業の取り組みで、子育て中のお母さんが働きやすいようにと託児所付きの事業所があったりしますよね。

【黒澤】一関にも増えると良いですよね！絶対良いと思いますよ。

【小野寺】先駆けだと室根の株式会社オヤマさんが、自社内に保育園を開設している事例があります。

【黒澤】良いと思います。私は、「事務職員の健康のためにヨガを教えに来てほしい」と月１回企業に教えに行っているところもありますよ。でも企業で保育園をつくるにしても、大きい企業はできても中小企業だと難しいじゃないですか。

【小野寺】そうですよね。去年かな、産業振興のワークショップにファシリテーターで行ったのですが、参加していた企業の方が「子育て環境を整えたくても、自分たちでは、なかなか整えられない」と言っていました。「自分の会社の隣に託児できるスペースを置いて、そこで子どもを見てもらうことができれば、若い人達がもっと定着するんじゃないかな」と発言していたのを思い出しました。

【黒澤】それを一企業で行うのは大変だから、ほかの企業と少しずつ出資しあって、社員は優先的に使える場所にして。

【小野寺】極端な話、保育士さんが１人いて、その人が最低限の人数をみるということでも良いでしょうから。一社でつくるのは難しいので、連携ですよね。

【黒澤】私は前から考えていましたよ。中小企業の方々もそうだし、保育施設のない地域でもネックになっている部分だと思います。今は共働き夫婦が多いし、そこで言われているのはやはり「保育園に入ることができれば」という声ですから。それに入園できたとしても保育料が高かったりしますし、それも子どもを産まない理由にもなってしまうわけですよね。だから、企業が保育料を少し負担して安心して預ける場所をつくれば、お母さんは仕事にすぐ復帰できますよね。

【小野寺】子育て中も安心とか、復帰しやすい環境が整っているという福利厚生ということですよね。

【黒澤】やっぱり、安心して子どもを産んで育てられるまちじゃないと人は集まってこないし、そのためには企業もないと若い人が働けない。だから若い人を確保するためには、やはりそういうのを充実させていかなければならない。一関市の子どもの出生率は年々減っていますし、だからこそ大事なのは「産んで育てていける環境」ですね。あと私が言いたいのは「共育（共に育てる）」です。これは親兄弟、地域全部で一人の子どもを育てていくということですね。

シニアの方と体操をする黒澤さん

マタニティー相談室くろさわ「サロン」

電話：080-6047-0301

住所：〒021-0813　一関市南豊隆 11 ファーブル 102 号

ＨＰ：http://www.kurosawa.junglegym.jpn.com/index.html

≪訪問母乳相談≫

料金　初診料 5,000 円、再診料 4,000 円（交通費別）

※平日夜間、休日昼間・夜間も対応可能です。

団体紹介

千厩病院歴代の院長やスタッフとの記念写真（左下：会長 遠藤さん）

～基本情報～

◆会長：遠藤 育子 さん
◆住所：〒029-0803
一関市千厩町千厩字宮田 31-17
◆電話：0191-53-2581（会長：遠藤）
0191-52-2250（事務局：畠山）

病院はおらほの町の宝～地域医療を支えるのは一人ひとりの心がけ～

まずは病院のことを知ることから

千厩病院は昭和 7 年に千厩町と川崎村の住民出資により「東磐実費診断所」として開設して以来（現在は岩手県に移管）、地域の暮らしを支えてきました。しかし、平成 21 年には常勤医の人数が数年前の半分以下になり、診療科も減ってしまいました。

朝顔のたね会長の遠藤育子さんは「私も家族が千厩病院に入院しましたが、当時の病院は患者にとっても病院で働く人にとっても大変な環境でした」と当時を振り返ります。

病院の現状を間近で見てこのままではダメだと思った遠藤さんは当時の総看護師長さんに住民は何ができるのか相談したところ、「まずは病院の現状を知ってもらいたい」と平成 21 年に「病院を知ろうの会」が開催されました。過酷な現場の様子を聞き、「知ったからには何かしなければ」と平成 22 年に団体を発足。「朝顔のたね」という名前には、名付け親である総看護婦長さんの「花からたくさんの種が取れるように病院を守ろうという種があちこちに根付いて広がってほしい」という願いが込められています。

住民も地域医療を学び、伝える

会の発足以前から、千厩病院では院内でのボランティア活動を行う人たちはいたため、病院からの「朝顔のたねには病院と住民のパイプ役になってもらい、外に向けた発信をしてほしい」という声に応え、発足当初は自治会単位での地域医療に関する講演のコーディネートをしたり、会員がまず参加して勉強しながら自分たちに何ができるのか考えました。

事務局長の畠山とき子さんは、その中で「医療懇談会や講演に参加するのは高齢者ばかり。長時間座って話を聞いていて私たちも疲れたし、おじいさんやおばあさんは家に帰って若い人たちに今日の話を伝えるのだろうか」と疑問を持ち、自分たちの番になったときに簡単な体操をして、方言で話し始めたところ、参加者が喜んでくれたそうです。そのときの体験をヒントに、伝えたいことを 15 分程度にまとめた寸劇仕立ての出前講座をスタート。

千厩以外の地域も回って、県立病院の状況や適正受診について講演していた矢先に東日本大震災が起こりました。施設が使えなくなった大東病院からの転院のほか、隣接する沿岸部からもたくさんの患者が運ばれ、後方支援の拠点となった千厩病院。全国から集まってくれる応援医師を見て「住民も何かできることを」と炊き出し活動を行い、現在も「朝顔ランチ」として月に 1 回程度、手料理やお弁当などを病院に届けており、ランチの情報に興味を持って千厩病院に来た研修医もいたそうです。

病院を守るために、それぞれができることを

最近では地域医療に対する関心が高まり、ＦＭあすもで地域医療のコーナーができたり、市や病院が開催する懇談会も以前より建設的な場になったそうです。

「以前は病院と地域の懇談の場を設けても、苦情や要望が多く、感謝が足りなかった。病院の皆さんは、患者さんが良くなって帰ってもらえるよう日夜頑張っています。病院だけが頑張るのではなく、住民側も医師が来たいと思える地域をつくっていかなければならない。それは必ずしもボランティアをするということではなく、診療時間を守ったり感謝の気持ちを伝えたり、それぞれができることをすることが何よりも大事だと思います」と遠藤さんと畠山さんは話されていました。

「朝顔ランチ」を食べる千厩病院の先生たち

地域紹介

「白浜公民館まつり」にて
「白浜の良いところ悪いところ」を
発表する小学生

～基本情報～

◆集落公民館長：佐藤正則さん
（前集落で 1 期、新集落で 1 期、計 3 年目）

◆花泉町涌津地域で行政区としては涌津 3 区にあたる白浜集落公民館は、統合で誕生したばかりの戸数 63 戸の小さな農村集落です。

集落統合で自治会化に向けての第 1 歩

10 年越しの集落統合

平成 30 年 2 月、涌津地域から集落が 1 つ減りました。といってもいわゆる限界集落での‘消滅’ではなく、今後を見据えての‘統合’であり、‘前向きな減少’でした。今回は 10 年前から統合の話が出ながら、ようやく実行に至ったという白浜第 1 集落公民館(以下：第 1 集落)および白浜第 2 集落公民館(以下：第 2 集落)改め「白浜集落公民館」の公民館長である佐藤正則さんに、統合の経緯や集落の活動について伺いました。

※花泉町の「集落公民館」：建物の名称を指す場合(①)と、そこを拠点に活動する自治会的な組織そのもの(②)、その両者を指す場合があります。

統合を機にした大きな改革

旧白浜第 1 集落および第 2 集落は、名前は第 1・第 2 となっていても、そもそも完全に別の集落であり、第 1 集落には役員がいるのに対し、第 2 集落では役員を置かず総会もないなどそれぞれの営みがあったといいます。その一方、合同で使用していた集落公民館(上記①)の運営に関しては、双方から運営委員として班長が参加、会費も各戸から徴収して別途組織されているなど（委員長は区長)、一般的な‘自治会’や‘集落公民館’とは異なる独自の慣習があったようです。

そんな両集落には 10 年ほど前から空き家など少子高齢化に伴う課題が目立ち始め、かつては 1 班 7～8 軒だったものが、3 軒しかない班も出てくるなど、コミュニティ活動を見直さなければならない状況に。しかし、統合した方が良いという声に対し、長らく各々で活動してきた年配者からの反対の声が相次ぎ、ようやく統合に向けた準備委員会が動き出したのは平成 29 年でした。6 回ほどの会議の中では新たな規約や事業、会費について検討。統合後の大きな変更として、各戸から会費を徴収し、その中から会長や役員にも役職手当を出すことに。第 1・第 2 集落共にこれまでなかった会費負担が発生することになりましたが、ほぼ全戸から参加者があった住民説明会でも反対の声はなく、10 年越しの新「白浜集落公民館(左記②)」が無事に動き出したのでした。

集落運営とはー　向き合い見直すこと

統合後も、従来の公民館事業はほぼ変わることなく継続しているとのことで、10 年以上続いているという「男の料理教室」には今年も 20 人ほどの参加者がいたそうです。また、空き缶回収にも力を入れており、今年は公民館近くに専用の鍵付き回収ＢＯＸを設置。仕分け作業や業者への運搬等は「その時やれる人がやる」というスタンスで、特に担当者をつけずとも協力し合って行っているのだそうです。

11 月には統合後初めてとなる「白浜公民館まつり」が開催され、作品展示等のほか、今年は出前講座の一環で地区内の小学生が「白浜の良いところ悪いところ」を発表するなど、統合を機に集落を見つめなおす機会を増やしている同集落。これまで苦戦していた地区民運動会等への参加者集めも「かなり楽になった」と佐藤さんは笑顔を見せますが、一方で集落公民館そのものの運営委員制や各種組合、公民館事業とはまた別の集落としての行事・慣例など、集落内の役や組織、活動にはまだ負担や課題も多く「何年先になるかはわからないが、いずれは自治会化することを目指している。統合はそのための第 1 歩」と、今後のさらなる改革も見据えます。

集落統合の先進事例として、今後の展開にも注目したい集落です。

老若男女が集まる白浜公民館まつり

株式会社　県南タクシー

企業紹介

代表取締役　伊藤利幸さん

～基本情報～
◆代表取締役：伊藤 利幸 さん
◆住　所：〒021-0884
一関市大手町 7-26
◆電　話：0191-26-5555
◆ＦＡＸ：0191-26-2141

行政や地域と連携し、暮らしに必要な移動サービスの充実を図る

車社会の発展と利用者ニーズの変化

私たちの日常における交通手段は、多くの場合“乗用自動車※1”に支えられています。

乗用自動車は、昭和 35 年あたりから普及しはじめ、昭和 40 年代に発展を遂げると経済成長の発展と共に現代人に（特に地方都市では）欠かせない交通手段となり、個々が運転免許証を取得し、“一家に一台車がある”という時代までそう長くかかりませんでした。

それでも、地方では昭和 50 年代後半頃までは自家用車よりも身近にタクシーや公共交通機関が多く利用されてきた背景があります。

株式会社県南タクシーは、昭和 28 年に営業を開始し、長く地域の“足”として親しまれてきました。

平成に入ると地方での自家用車の普及率はさらに上がり、タクシー利用率の低下が危ぶまれる中、先代の代表取締役である岩井敏夫さんが、半身麻痺となった母親の通院の苦労をきっかけに、平成 9 年から市内で初となる福祉タクシーを導入。「高齢者や障がいを持った方々がより安全に利用しやすい環境」を目指し、地域社会の強い味方として注目されました。

※1 タクシー、自家用車などもっぱら人間の移動のために用いられる自動車のこと。

利用者にも家族にも優しい介護タクシー

現代表取締役の伊藤利幸さんは、もともと大手自動車メーカーに勤務。岩手県内を中心とした営業マンを経て、最終的に支店長となった支店を分社化し独立子会社を設立するなど、経営の立て直しを図る手腕の持ち主です。この背景から、平成 15 年には千厩町の有限会社西宗タクシーの代表取締役として経営に携わり、平成 18 年からは、株式会社県南タクシーの先代とのご縁もあり代表取締役社長に就任し現在に至ります。

県南タクシーでは、福祉タクシー導入後、平成 15 年の介護保険法の改正をきっかけに介護保険事業所の認定を受けました。乗務員はホームヘルパーの資格を取得し、介護福祉士を中心としてケアプランに沿った訪問介護サービスを展開しており、介護保険を利用した場合、利用者負担が一割で済むことなども特徴です。

「私たちは人の命を運ぶ仕事です。どんな方でも利用しやすいように、同じ目線に立ち、どんな環境のタクシーであれば満足していただけるかを意識し、より安全安心な運行を心がけています」と語り、「高齢化社会が深刻化する中でいち早く福祉や介護という視点をタクシー業界に取り入れた先代の思いを、私は重点的に継続すべく引き継いだまでです」と伊藤さんは続けます。介護タクシーの会員登録者数は延べ 1800 人を超え、毎月 100 人ほどが利用しているとのことです。

高齢化社会にデマンド型乗合タクシー

一関市では、通院、買い物などの日常生活に必要な交通手段として、民間の路線バスが通っていない地域を中心に、市営バス、なのはなバス、廃止路線代替バス（東磐交通）、デマンド型乗合タクシー※2（以下「デマンド型」）を運行しています。このうち、デマンド型は舞川地区と達古袋地区で 1 年間の試験運転を経て、平成 28 年から一関地区タクシー業協同組合（同社を含めた 4 業者）が運行しています。伊藤さんは同協同組合の理事長に任命されており、計画策定の段階から協議に携わってきました。「市、地域、企業、個人それぞれがアイディアを持ち寄り、今後も継続して地域の暮らしに必要なサービスを提供していきたい」という伊藤さんの言葉からは、タクシー業界の在り方について地域と真剣に向き合おうとする姿勢が感じられました。

福祉車両 5 台、青ナンバー営業車 33 台、UD 車（ユニバーサルデザイン車）2 台を保有し、観光から介護まで幅広く対応ができます。

※2 事前登録の上、利用予約をし、自宅付近などから乗降場所まで移動できる公共交通サービス。

センターの自由研究　市内の気になる巨石～立石神社～

センターの〇〇！

立石神社正面

先月号では、センターの独自調査で市内の巨石ランキングを作成。第１位の大部ヶ岩に調査を試みましたが、スケールが大きすぎて調査を断念…。そこで今月号はランキング第２位で先月号の巨石調査でご協力をいただいた一関市博物館副館長の相馬美貴子さんもお薦めという『立石神社』をご紹介します！

立石神社（たていし）

住所：一関市藤沢町
増沢字立石１番地

御神体となっている巨石とスタッフ（身長 152 ㎝）を比べてみました！

最初に情報提供をいただいたときは、「そんなにすごい巨石なの？」という半信半疑の気持ちが…。しかし実際に立石神社を訪れると、インパクト抜群の巨石を発見！思わず後ずさりをする迫力と存在感のある巨石は、樹林の間から差し込む日差しとあいまって神秘的な光景を創り出していました。

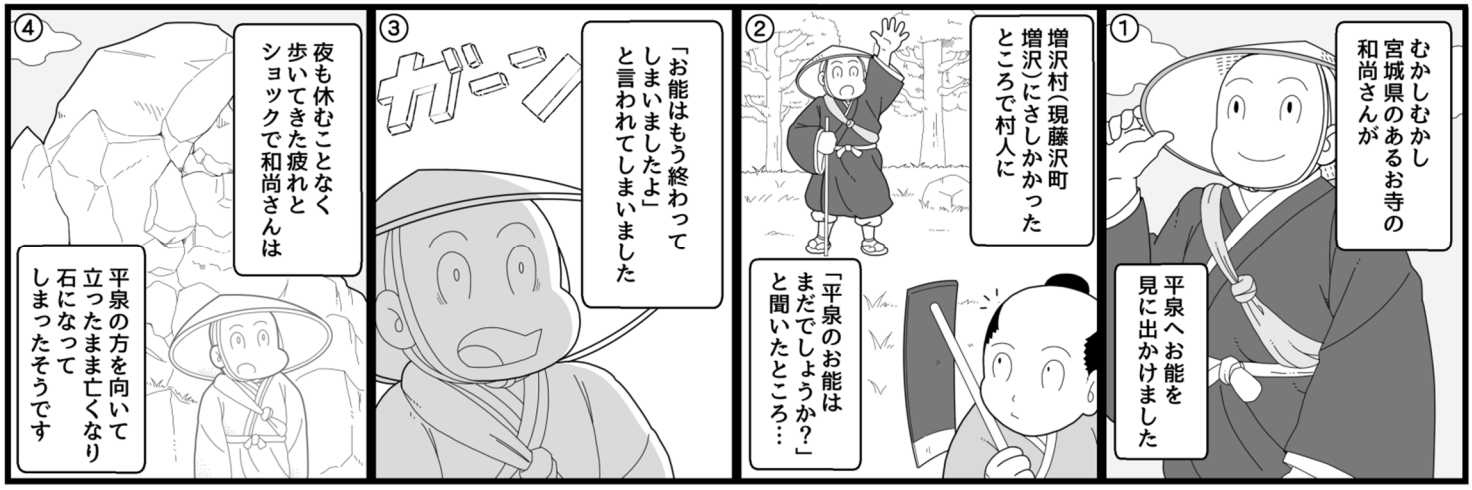
立石神社はおよそ 120 年前に建立され、増沢村（現：藤沢町増沢）の村社となっていました。御祭神の倉稲魂命（うたのみたまのみこと）は五穀豊穣と家内安全の神様として祀られ、本殿背後にある巨石（高さ 17m）は、御神体となっています。神使は白狐（※）とされています。

また、立石神社には昔から「石になった和尚さん（下記漫画参照）」や「江戸時代に、巨石を国の建造物の材料にしようと役人が石工達を連れてくると、巨石の根元に大蛇が絡みついていた」といった昔話も言い伝えられているそうです。

※神使は“神のつかい”とされ、狐や狛犬、白蛇などのことを指し、邪気を消し、福をよぶといわれています。

＜取材協力＞
・宮司　菅原瑞男氏　・立石神社総代の皆様

石になった和尚さん



おしらせ

イベント　釣山公園　心字ヶ池 平成最後のイルミネーション

主催：「釣山から始める元気なまちづくり」事業実行委員会

一関地域のシンボル釣山公園の魅力を再確認し、個性を活かした魅力ある景観まちづくりを目指します。秋の紅葉ライトアップに続き、今回は釣山公園の心字ヶ池を平成最後のイルミネーションで彩ります。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期間】～平成31年1月18日（金）まで
【時間】17時～22時
【場所】釣山公園
【料金】入場無料
【問合】0191-21-2111（内線8541）
（同実行員会事務局：一関市役所建設部都市整備課内）

募集　結婚のもうひとつのカタチ ムコ殿

主催：いちのせき結婚活動サポートセンター

婿入りできる男性と、婿取り希望の女性による婚活イベントです。参加の方には、事前講座として服装ワンポイントアドバイス（男性）、メイク講座（女性）をご用意しています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成31年2月2日（土）10時～14時30分
【場所】千厩酒のくら交流施設
【対象】20歳～45歳の婿入り可能な独身男性
　　20歳～45歳の婿取り希望の独身女性
【参加料】2，000円（男女共通）
【応募締切】男性1月14日（月）、女性1月20日（日）
【問合】0191-48-4677

イベント　第3回シニア・フェスタ

主催：一関市シニア活動プラザ

シニア活動プラザで活動する団体が一同に会し、日頃の活動発表などを行います。ステージ発表は8団体、実演・体験は7団体、ブースは15団体の参加を予定。シニアの皆さんの知識や経験を活かした発表が盛りだくさんの空間です。年齢問わずどなたでもご来場お待ちしています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成31年2月3日（日）10時～15時
【場所】なのはなプラザ2階
【料金】入場無料
【問合】0191-31-8118

イベント　第12回全国わんこもち大会

主催：全国わんこもち大会実行委員会

一関の餅文化をユニークに発信する、岩手名物“わんこそば”ならぬ“わんこもち”！2人1組、または個人でエントリーし、5分で何個のもちを食べられるかを競います。年齢制限はありません。どなたでもご参加お待ちしています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成31年2月3日（日）競技10時～
【場所】一関保健センター
【参加料】団体戦（2人1組）2，000円
　　男性・女性個人戦　各1，000円
　　※入場は無料です
【問合】0191-26-6400（いちのせき市民活動センター内）

イベント　一関ハンドクラフト展 Vol.10

主催：可愛い生地屋レッドバタフライ

各地から集まった人気ハンドメイド作家たちによる商品の展示・販売を行います。色々な手作り体験、飲食、占い・癒しブースなども充実。3日間を通して、岩手県南最大級となる140店舗以上が出店します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期間】平成31年2月8日（金）～10日（日）
【時間】10時～16時（3日間共通）
【場所】なのはなプラザ2階
【料金】入場無料
【HP】http://redbut.web.fc2.com/
【問合】lovely@redbutterfly.biz（メール）

ワークショップ　生物の進化に学ぶ！心が楽になる子育て

主催：地いき　楽しく　アイビーナ

遊びが学び！生物の進化から読み解く子育ての新常識！子どもの行動に毎日イライラしたり怒って落ち込んだりしていませんか？なぜ子どもが言うことを聞かずそんな行動をするのか。生物の進化から読み解いた、あっ！と驚く新常識でより楽しい子育てに！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成31年2月9日（土）14時～16時
【場所】なのはなプラザ3階　和室（予定）
【対象】子育て中の方
【参加料】500円（お茶・お菓子代込み）
【問合】090-5238-9523（10時～16時）

講座　自治会長サミット vol.7

主催：いちのせき市民活動センター

自治会運営に携わるご本人から皆さんへ、生の声で“自治会運営のコツ”をご紹介いただきます。今回は地域の絆づくりについて千厩町・木六自治会さんに、地域の役職を集約・調整した余裕ある活動について花泉町老松・四日市場集落会さんにそれぞれ発表いただきます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成31年2月16日（土）13時30分～16時30分
【場所】川崎市民センター
【対象】市内自治会長または準ずる役職員の方
【参加料】無料
【問合＆申込】0191-26-6400

イベント　昔ばなしと昔あそび

主催：いわいの里ガイドの会

一関地方に伝わる民話や伝説を、地元の言葉で語り継いでいる「いわいの里ガイドの会」の語り部が贈る冬のお楽しみ。300年の歴史があり、当時の武士の暮らしを垣間見ることができる「旧沼田家武家住宅」で、昔ばなしと懐かしい遊びを一緒に楽しみませんか。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成31年2月16日（土）10時30分開演
【場所】旧沼田家武家住宅（一関市田村町2-18）
【料金】入場無料
【問合】0191-21-8188（旧沼田家武家住宅）

イベント　また来night（こナイト）☆

主催：民泊＆ゲストハウス「またきたい」

皆で集まり、お酒を飲みながら交流したり情報・意見交換を行う自由参加型の飲み会です。仲間探し、仕事や作品のPR、企画へのアイディア募集など様々な話題を持ちより、みんなで楽しく語り合いましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】毎週金曜日　19時～　※都合により開催しない週もございます。必ず事前にお問い合わせください。
【場所】またきたい（一関市滝沢字寺田下54）
【参加料】宿泊付き3,800円、宿泊なし2,000円
　　（仕出し、つまみ等の食べ物付き）
【持ち物】お酒　※種類により本数など条件あり
【HP】http://matakitai.com　【問合】0191-78-0700

今月の表紙

2月16日の「自治会長サミット」で発表予定の花泉町老松・四日市場集落の「金剛山秋の例大祭」にて奉納されていたしめ縄です。毎年しめ縄には紅白の南天を飾るそうですが、今年はこのしめ縄も地域のお年寄りの方に教わりながら手作りしたそうです。

Q＆A　あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q　NPO法人も「県民税」を支払わなければならないの？

A　法人化すると「法人県民税」が課税され、金額は「法人税割+均等割」で求めることができます。「法人税割」は収益事業を行う場合に適用され、法人税額の5%が支払い金額になります。「均等割」の金額は22,000円ですが、収益事業を行わない場合は免除されます。しかし、収益事業を行う場合であっても、設立から3年以内に終了する事業年度のうち、収益事業に係る所得がない事業年度に限っては、同様に均等割が免除されます。

発行■いちのせき市民活動センター　〒021-0881　一関市大町 4-29　なのはなプラザ4F　Tel 0191-26-6400　Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803　一関市千厩町千厩字町 149　Tel 0191-48-3735　Fax 0191-48-3736

Face book